

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100050		
法人名	株式会社 葵		
事業所名	梅香丘温泉グループホーム	【ユニット名:】	みかん
所在地	和歌山県日高郡みなべ町埴田1540番67		
自己評価作成日	平成26年6月6日	評価結果市町村受理日	平成26年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みなべ町で初めてのグループホームであり、地域に密着した事業所を目指しています。温泉も使用可能で、入浴の楽しみを持って頂けます。畑や芝生も隣接しており、農作業や外気浴も気軽に行えます。レクリエーション活動も多く取り入れ、毎日活気のある生活をして頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成26年6月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋の2ユニットに隣接して畑や芝生もあり、のどかで開放的な雰囲気である。ユニットごとにテラスがあり、周りに緑も多く、外気に触れながら季節の花を楽しめるよう工夫している。国道に面しており車の往来は多いがホーム前は歩道が広く、地域の集会所へ歩いて出かけている。昨年6月開設の事業所であり、毎月作成している新聞を家や町役場、社協、医療機関などに配布し、ホームの様子を知らせ、地域に密着した事業所として根付いていけるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一生(笑)一緒に活きましょう」の理念を元に実践している。玄関に掲示しており誰でも見る事が出来る。	事業所理念は、玄関の誰の目にも触れやすい場所に掲示して、理念に基づいた職員の意識統一を図っている。家庭的な雰囲気作りを心がけ、最期まで笑いながら過ごせることを大切に理念の実践に務めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々のボランティア受け入れや町運営の集会所にも行き交流している。近所の店舗へ買い物にも行っている。	散歩コースに出向く地域の集会所が地域住民との交流の場となっている。地域の中学生の体験学習も受け入れている。国道に面したホーム前の歩道の花壇の管理を町から任せ、花壇に植える花の苗を育てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方々、家族、面会の方にも認知症の事を伝え相談にのっている。新聞も発行しており家族、役場、病院等に配っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている。参加人数も増え、地域の会館を借りたりしている。	運営推進会議は、近くの会館で、町の担当者、社協の職員、利用者家族が参加して、2ヶ月に1回開催している。利用者家族には全員案内を出しており、複数の家族の参加がみられる。	民生委員や、自治会の役員などにも呼びかけ、高齢者ケアの地域の拠点としての役割も担っていただける取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の連携は担当の方と運営推進会議の日程を決めたり、会議参加で報告している。新聞配布時にも情報交換している。	運営推進会議が担当者と話し合える場となっている。事業所が発行する新聞を毎月町役場に持参しており、相談、情報交換などを通して協力関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何か新しい取り組みをする前に身体拘束にならないか確認し、家族、職員にも説明している。玄関は夜間早朝以外、施錠していない。	職員が手薄になる時は安全面への配慮から、一時的に施錠することもあるが、利用者の自由を妨げないよう、普段はユニットのドア、玄関の扉に鍵を掛けないようにしている。気付かずに身体拘束にあたることをしていないかについても職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に健康管理を行い防止に努めている。家族との連絡も頻繁におこなっている。		

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム ユニット名:みかん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度を利用されている方もいるので、その都度、職員に制度等を説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、その事を説明しており何時でも相談にのれる体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にも相談にのっている。日常会話の中から利用者の要望をくみ取り、会議にて反映させている。	家族の訪問時に話しを聞き、意見や要望があればサービスに反映できるよう務めている。訪問が少ない家族にも関心を持ってもらえるよう、毎月配布する新聞の内容も工夫し、必要に応じて意見を聞き、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議、管理者会議の議事録の掲示や、月一回のグループホーム会議で職員同士の意見交流の場を作っている。	管理者、リーダーは日頃から職員と話し合う機会を作るように心がけており、職員会議の中で職員の意見や提案についても話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスや疲労には気配りをしている。また極力、希望する公休日が取れるように努め、連休も取得出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて計画を立てている。また研修会や講習会には積極的に参加するようにしている。参加できなかった職員にも周知を図るように勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お会いする機会があれば、交流の機会を持ち情報交換させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定時より本人に面会して聞き取り、面接シート作成して入居までの生活環境状況を把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みされると家族との面接の時間を作って頂き、グループホームでの生活での希望・要望を聞き取り面接シートに記入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接での聞き取りと本人の様子等を含めた状況から介護者全員に情報が伝わるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の職員ではなく担当職員を決めて連携を取り合っ家族に近い関係性を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の担当職員を決め、きめ細かい支援をする為に家族との電話連絡、報告、相談をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	みなべ町の入居者が殆どで一緒に町の行事(敬老会、祭り、各種イベント)に参加している。	地域の集会場での行事や町内でのイベントに参加し、町内の利用者が出かけた先で知り合いに会うことも多い。今年は家族や馴染みの人も参加できるよう花火大会の見物や敷地内の畑での芋掘りを企画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2ユニットの中での人間関係を申し送りや担当者による状況報告で把握して個人に添えるケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居された方の状況把握をして定期的に、又は折にふれ様子伺いやお見舞いにより本人、家族の心のケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居されるまでの環境や入居されるにあたり希望や要望を受け入れて本人の優先順位を考えてチームでケアに関わっている。	担当職員を中心に、利用者一人ひとりの思いを聞くようにしており、詳しく記録されている。利用者が自分で選んだり決めたりできる機会が持てるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当ケアマネより情報提供や家族からの聞き取りや本人の話から直接話しを伺って生活環境の変化をなるべく少なくするように連携を取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにて本人の様子確認や話を伺って生活スタイルの把握に努めて、色々なレクリエーションを提供した中から状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居決定後、担当ケアマネから情報提供書に基づいた15の窓を作成して職員全員にそれぞれの職員から見た考え方を記入し、カンファレンス会議を実施している。	各職員の観察結果を丁寧にまとめ、それを元に計画を作成している。3ヶ月毎に見直し、話し合っているが、記録による次の計画へのつながりが把握しづらいところもある。	情報の記録と、介護計画・見直し・評価から次の計画への流れが、だれでもわかりやすく読み取れる記録とファイリングの工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に作成した15の窓で育ってきた環境、入居されるまでの日常生活や様子、医療、出来ること出来ない事、認知症、家族関係などを詳しく記入して共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別制を重視して、その人らしく生活できるように個別対応のサービスをケアプランに入れて実施している。		

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム ユニット名:みかん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意見を尊重し、自己にて出来る事はなるべくして頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や往診、緊急時の対応等を受けられるように支援している。馴染みの病院も希望すれば対応している。	2週間に1回協力医療機関の往診を受けられるので、かかりつけ医を協力医に変更する利用者が多い。協力医以外への受診も利用者や家族の希望があれば対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、家族と相談の上、訪問看護を利用したり受診も受けられるようにしている。二週間に一度の往診時に医師、看護師に状態を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の体調や薬についても医師に相談し連携を取っている。入院後は面会時に担当医師等に情報を求めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とも方向性を十分に話し合い、支援を行っており同意書にも署名捺印してもらっている。家族の泊まりも受け入れており、自宅と同じような環境で生活出来るように努めている。	まだ看取りの実績はないが、いつでも対応できるよう準備を整え、希望に添えるように、話し合いの場を持つようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えとして連絡網を利用し、対応は出来ているが定期的な訓練は行っていない。緊急時の対応研修は参加している。(AED、心配蘇生等)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の確認や誘導についてもレクリエーション(散歩)を通じ対策している。地域との連携は出来ていないので運営推進会議にて決めて行く。	避難場所に指定されている国民宿舎まで避難訓練を兼ねて徒歩で移動するなどの対策を講じている。夜間の災害について不安に思う家族もいるので対策を検討している。	スムーズな避難への訓練を重ねると共に、地域への働きかけで協力体制が築けることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り本人の要望に応えられるように対応し、本人に合った言葉掛けを心がけている。	利用者の人格を尊重し、姓で声を掛けるなど、馴れ馴れしい態度にならず、きちんと接することができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制的なレクリエーションの参加や入浴はせず、本人の意思を尊重し無理のない声掛け等で過ごしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者には希望、要望に沿えるような環境作りを目指す為、利用者とはよくコミュニケーションを図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者には出来るだけ衣類は自分で選んで頂いたり、職員は助言を行っている。散髪は馴染みの店を使ったり、訪問理容を利用したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託会社にしてもらっている。おしぼりをたたんで頂いたり、トレイ、テーブル拭きを職員と一緒にしてもらっている。職員は同じ時間帯、同じテーブルで食事を摂っている。	日常の調理は業者が行い、勤務の都合で、一緒にテーブルにつける職員はあまりいない。食の楽しみを共有できるよう、月に1回程度は皆でおやつ作りなどを行っている。	職員の休憩時間を確保しながら、利用者と一緒に食事を楽しむゆとりを持てるような体制作りを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者により塩分を控えたり、決まった水分量を定期的に提供している。摂取量の記録、医師との連携を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。強く拒否された時は出来ていない。口腔ケアの記録も取っている。		

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム ユニット名:みかん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレへの声掛けを行ったり、訴えがあれば介助を行っている。排泄記録表も付けている。	本人の思いを大切に自尊心を傷つけないよう配慮している。トイレのスペースは広く取られているが、ユニットに1箇所となっていて、夜間は居室でポータブルを使用する人も多い。	ユニットにトイレが一つしかなく、排泄への不安感が増強しないような方策が望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を心がけており、排泄記録により必要に応じて医師と相談の上、下剤でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日等はあらかじめ決めていて、一人一人ゆったりと入浴出来るように配慮している。	週2回程度入浴できるよう支援している。温泉の源泉を引いていて、個浴で温泉が利用できる。入浴を好まない人に対しても無理強いないで気持ちよく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠リズムに合わせて自分の居室で入眠して頂けるように対応している。室温調整をし快適な環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を確認し、服薬管理をしておりその薬の効果を得られているか日々、確認している。医師、薬剤師との連携もあり、いつでも相談出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホール掃除や洗濯物干し、たたみ等個々の能力に合わせて楽しく作業して頂けるようにしている。煙草、買い物、外出、レク、趣味にあったものを自己決定出来るように個別に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	盆、正月等や遠方の家族の帰省に合わせて家族と外出出来る機会を作るため、家族と連絡を密にして準備を整えている。	散歩など、日常的に戸外に出る機会を作り、地域の行事や、イベントにも参加できるように支援している。畑や芝生のスペースが有り、外出を好まない人も、気軽に外の空気に触れることができる。	

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム ユニット名:みかん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品、嗜好など職員が付き添い、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の取り扱いは自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	海岸沿い近くに位置しておりテラスには季節の草花を植え、常に季節感を出せるように配慮している。エアコンや加湿器などの空調設備を利用し、心地よい空間作りを心がけている。	ユニットごとにあるテラスで、屋外の空気に触れながら季節感を楽しめるよう工夫している。食堂のテーブルは、時折配置換えして、気分転換を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、マッサージ機を置き囲んだり、テラス、東屋にもテーブルを設置し天気の良い日は外気浴をしたり散歩に誘っている。テラスへの出入りも自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染のものを飾ったり持ち込まれ、心地よく安心した生活を送って頂けるようにしている。整理整頓は担当職員が手伝う。	洋室と和室があり、ベッドでも布団でも対応できる。収納スペースも広く取られ、利用者の馴染みの物を飾るなどして、それぞれの好みの部屋となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには歩行の際、障害物となる物はなるべく置かないようにしたり、自立支援として手すりを設置している。		